

萩地圖時代推定録

安藤紀一著

Y203

F8

館内



Y203  
F8

074  
93  
2577

之  
錄  
地  
圖  
時  
代  
推  
定  
標



安藤紀一氏寄贈



34232

萩市立圖書館



緒言

昔の萩の図は今こゝにのこれるもの幾ばくありや明らかあらねどおのれが見たるにても三十に達せりその内折本はふるくして後のものは屏風多きは何故にやそれをかれこれと見るまゝに圖に表すれり人名地形等どのうづかまりにまうてその時代をたしむるに一定のたふあふ心なむやくのわざやといふ聲も立たむ立てその國ひのちたまるまは中をいづる遠からじ

戊辰のとし八月十三日

六十四叟 静宇 南古萩の 酒居に 去るす



萩地圖書時代推定録

○萩所役場所蔵萩地圖寫

原本は慶安五年六月廿四日江本二即右衛門厚母四郎兵衛二人より幕府御目附齋藤左源太山田清太夫へ差出したるものなりと圖後に記したり

○明倫小学校所蔵同圖

堀内に島田殿と記せるあり是は寛文十年五月に萩に來れり人にて甲府侯の家老島田淡路父子なりと云かして延宝三年に始て設けられたる濱崎非人固屋といふものは此圖に見えず故に此圖は寛文十年以後延宝三年以前に成れるものなるべし

○萩圖書館所蔵同圖

大正十四年六月十二日閱  
大正十四年八月二十二日閱  
大正十四年八月十六日

○兼常清佐氏所蔵同圖

濱崎に延宝三年建立の泉福寺と記し堀内に延宝七年八月十六日死亡せし吉川監物の名を記せり

○



故に此圖は延宝三年以後同七年八月以前に成りしものなるべし

○萩圖書館所藏同圖

四丙六、七六号小軸物  
大正十四年六月十二日関

寛保元年に死せし福原豊後の名、享保十七年に死せし口羽六兵衛元通の名を記せり其他の人名次の圖と同じきもの多し故に是は享保十七年より遠からざる前の頃に成りしものなるべし

○萩圖書館所藏同圖

一〇八号折本  
大正十四年六月十二日関

福原豊後の後嗣少輔三郎の名、口羽元通の後嗣就通の名を記す故に是は寛保元年より遠からざる以後の頃に成れるなるべし

○河武郡役所所藏同圖

軸物  
大正十四年四月廿五日関

宝暦二年八月十二日死せし山縣少助(庄助)の名あり寛延元年に成りし城南門大馬場あり故に是は寛延元年以後宝暦二年以前に成れる圖なるべし

○菊屋孫輔氏所藏同圖

折本  
大正十五年七月二十七日関

明和三年創立の龍福寺あり南園御茶屋は記したれども後に書入れたるものに製圖当時の記載に非ずとあかしてその御茶屋は明和五年に創められたり故に是圖は明和三年より五年までに成れるなるべし

○河野通教氏所藏同圖

折本  
大正十三年八月三十日関

天明八年二の丸より八丁南苑に移されし御島郡屋をその移轉の位置に記せり寛政四年六月に死亡せし射術師粟屋舎人の名を記せり故に是圖は天明八年以後寛政四年以前に成れるなるべし

○池田常吉氏所藏同圖

屏風切れ  
大正十四年八月廿五日関

射術師粟屋氏に寛政十二年の頃まだ嫡子なりし殿衛といふ人の名を記し享和三年六月八日死亡せし益田丹後就泰の名見えたり故に是圖は享和元年頃より後同三年六月までに成れるか



○河内才三氏所藏同圖

折本 昭和三年一月三十日閱

土原に寛政八年八月十日家督をつぎし桜井幸助の名見えぬかし  
て新堀に文化八年十一月設置の相場所と記せず  
故に是圖は寛政八年八月以後文化八年以前に成れるならむ

○吉山謙助氏所藏同圖

屏風 大正十四年六月四日閱

文化九年採用せられし森重曾門の浜崎の督古場を記し天保初年迄  
の頃に戸主たりし因司将監の名見ゆ  
故に是圖は文化九年以後天保初年以前に成れるなるべし

○岡田伊郎氏所藏同圖

屏風 大正十四年八月廿六日閱

須佐邑主の益田氏は刑部の名見えたり此人後に越中と稱す平表  
に天保十一年三月朔日地職益田越中任江戸職とあり是なり大野邑主

の毛利氏は隱岐とありこの人天保九年四月の頃は熊太郎と稱  
せり  
故に是圖は毛利熊太郎己に隱岐と改め益田越中未だ越中と稱せ  
ざる頃即ち天保九年より十一年の前までに成れるなるべし

○岡村十次郎氏所藏同圖

屏風 大正十四年八月廿日閱

天保十三年二月開かれし江向地面の小溝を記し同年十二月達ち  
揃ひし五所の鐘樓の内平安古中渡と高句驛峠との兩処には未だ  
載せず  
故に是圖は天保十三年にて二月より十二月までの間の有様か

○三浦卯一氏所藏同圖

屏風 大正十四年六月三日閱

明倫館は嘉永元年十二月まで用ゐられたる舊館を記し因司信濃  
は信濃と記せずして弘化四年始て家督せし時の熊之助の名を記  
せり  
故に是圖は弘化四年の頃かたそくとも嘉永元年までに成りしもの  
なるべし



○津田又次氏所藏同圖

掛額

大正十四年五月一日閱

明倫館は前掲の圖と同じく古館を記し江向地面の大亭寺宿坊より秀岳院に通ずる道と他の道幅と同大にかきたり此道は嘉永元年中にかくの如く幅ひろくなれり故に是圖は嘉永元年中に成れるものならむ

○富田要七氏所藏同圖

屏風

大正十四年七月廿四日閱

江向に嘉永二年正月開創の新明倫館を記し八丁の醫學所の処には御用屋敷と記して醫學所の文字なし此醫學所は新明倫館開創の年に八丁より館中に移し翌三年六月廿九日再ひ八丁に復せらる故に是圖は新館開創の年かの醫學所の館中にありし時期又はおそくとも三年の六月頃までに成りしものならむ

○長濱友雄氏所藏同圖

屏風

大正十四年五月一日

嘉永五年十月廿四日死せし口羽飛驒の名を記し明倫館は前掲の

圖の如く新館を表示せり故に是圖は嘉永二年以後同五年以前に成れるものなるべし

○馬屋原五郎氏所藏同圖

屏風

大正十四年六月十六日閱

好生館は安政二年二月八丁より明倫館内に移されたるに此圖には八丁に猶好生館を記せりよかして嘉永五年十一月開疏工事着手の焼倉及び河添の渠は描けり故に此圖は嘉永五年以後安政二年以前即開渠工事中に成れるか

○赤川鐵子氏所藏同圖

屏風

大正十五年六月廿日閱

馬屋原氏所藏の圖と略同し

○村上安寧氏所藏同圖

屏風

大正十四年七月廿四日閱

馬屋原氏所藏の圖と略同し



○菊屋孫輔氏所藏同圖

屏風

昭和三年二月廿六日

嘉永五年工事着手の焼倉及び河添の掘割を記し安政三年正月死亡の布施席之助の名あり  
故に此圖は嘉永五年以後安政三年六月までに成りしならむ

○赤崎太一氏所藏同圖

屏風

大正十四年六月十三日

國司信濃の任処にその安政五年七月四日までの通称ふる熊之助を記し焼倉河添の掘割をり描けり  
故に此圖は嘉永五年以後安政五年七月より前に成りしならむ

○厚東毅一氏所藏同圖

屏風

大正十四年七月十三日

八丁に好生館の記載なし好生館は安政二年二月明倫館内に移る  
國司氏は安政五年七月四月すての熊之助の稱を記せり  
故に此圖は安政二年二月以後安政五年七月まで成りしならむ

○岡野田中義一氏所藏同圖

屏風

大正十四年八月三日

安政五年七月國司熊之助の改め稱せし信濃の名を記し万延元年三月に成りし西濱操練場を記せず  
故に是圖は安政五年七月以後万延元年三月以前に成りしならむ

○井上専二氏所藏同圖

屏風

大正十四年八月二十日

万延元年三月創設の西濱操練場を記して文久元年七月五日創設の菊屋操練場は無し  
故に此圖は万延元年三月以後文久元年七月五日までに成れるか

○大照院所藏同圖

屏風

大正十四年四月二十日

安政五年七月始て稱せし國司信濃の名を記し文久二年七月廿八日  
まで稱せし益田彈正の名を記す  
故に是圖は安政五年七月以後文久二年七月以前に成れるならむ



○平安寺所藏同圖

屏風

元治元年大正十四年六月十六日に死せし園司信濃の名あり万延元年三月創設せる西決練兵場を記せり故に此圖は万延元年三月以後元治元年十一月以前に成れりか

○河内正一郎氏所藏同圖

屏風

平安寺所藏の圖と略同ト

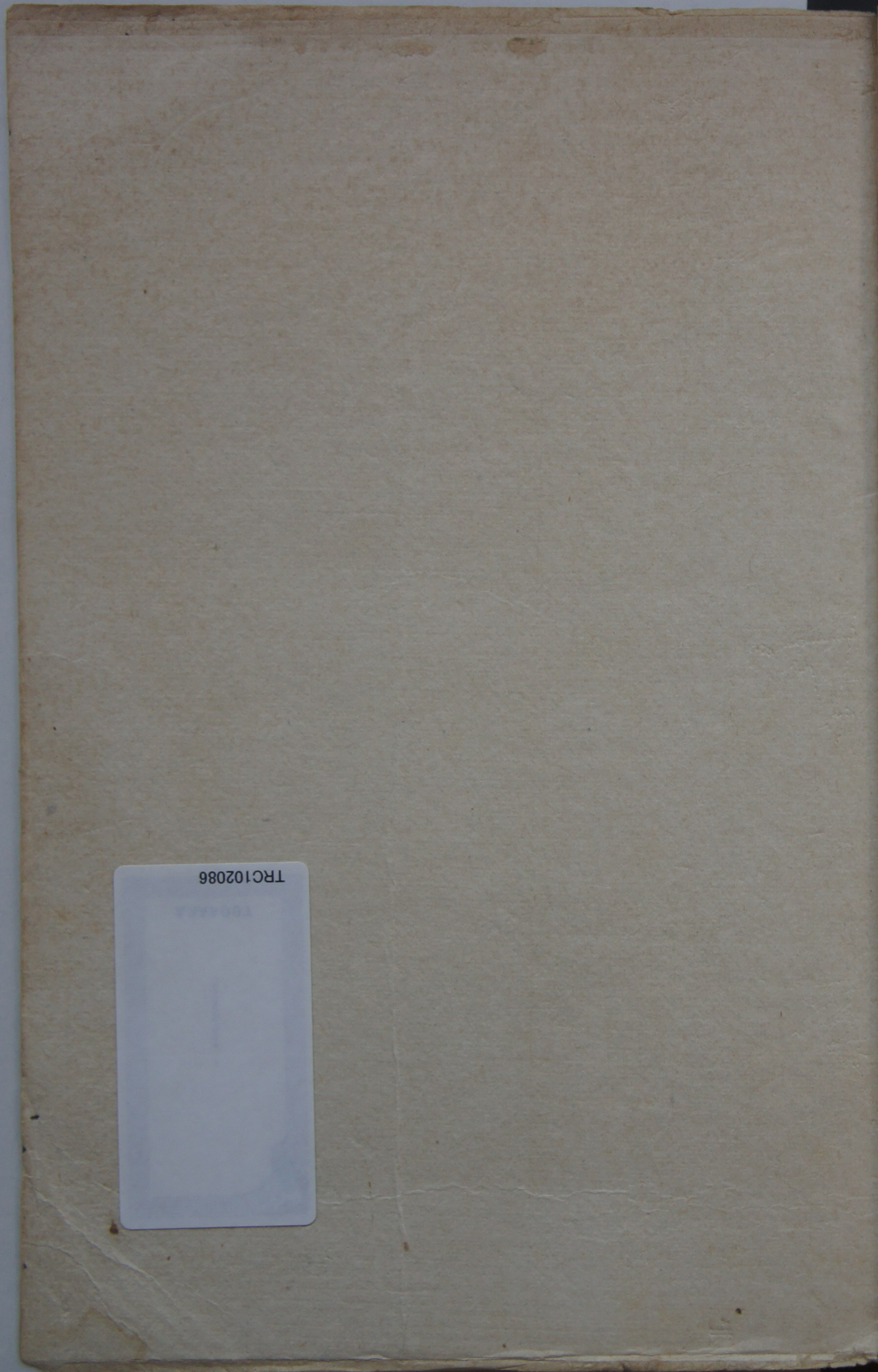
大正十四年六月十六日閱

○多田照子氏所藏同圖

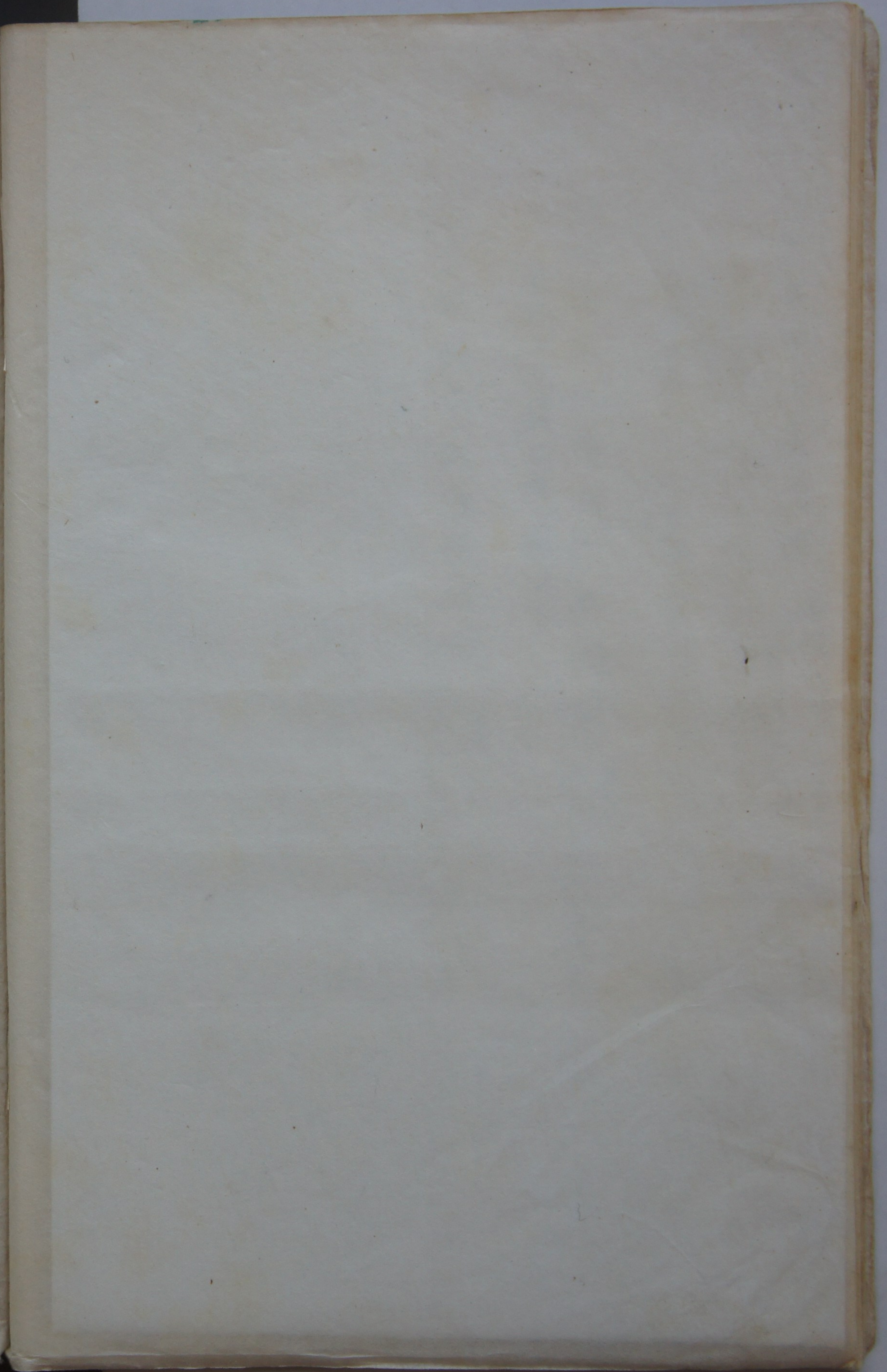
屏風

文久元年七月五日創設の菊浜操練場を記し元治元年に死亡せし園司信濃の名を記せり故に此圖は文久元年七月以後元治元年十一月以前に成りしものなりト





TRC102086





秋市立図書館蔵書

秋市立図書館  
111348421